

一般入試前期A日程2日目

国語

I

出典『魔法の世紀』（落合陽一）株式会社 PLANETS 2015年

〈非メディアコンシャス〉という、「メディア」が意識されない情報環境の実現について説明された文章です。専門用語の説明、マーク・ワイザーの主張、指示語の内容を正確に読み取ることが大切です。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は 1 ～ 5）

a 貢献 b 逝去 c 曲解 d 対極 e 付（附）随 がそれぞれ正答です。完全正答率は1%でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は 6）

正答は⑤です。直後の「原理を意識せずに」、「原理を人々に意識させない」という本文から正答を導けます。正答率は61%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は 7）

正答は④です。空欄 II の4行後ろ「我々が情報と直接に触れ合うような感覚」に該当する語を選びます。正答率は27%でした。

問4【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は 8）

正答は③です。傍線部 F 直後の「メディアが意識されない」という内容にあてはまるものを選びます。正答率は72%でした。

問5【空欄補充・内容理解に関する問題】（解答番号は 9）

正答は①です。空欄 ア 直後の「モバイル通信がさかんに行われる社会」に該当する表現を、空欄 ア 直前の博士の意図から抜き出します。正答率は65%でした。

問6【空欄補充・内容理解に関する問題】（解答番号は 10）

正答は②です。空欄 イ の後ろ2文から正答を導けます。正答率は69%でした。

問7【空欄補充・内容理解に関する問題】（解答番号は 11）

正答は②です。第12段落後半から正答を導けます。正答率は96%でした。

問8【語句の意味】（解答番号は 12）

正答は③です。意味を知らなくても文脈から正答を導くのはさほど難しくはありません。正答率は45%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 13）

正答は⑥です。傍線部 B 直前の「この『無意識性』」が指す内容から正答を導けます。正答率は93%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 14）

正答は⑤です。「カーム・テクノロジー」は第5・6段落で説明されています。②はラップトップ類を物理的に普及させるという内容であるため不正解です。正答率は48%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は15）

正答は⑥です。第15段落から正答が導けます。⑤の説明は限定的であるため不正解です。正答率は80%でした。

問12【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は16）

正答は③です。傍線部E直前「それ」が指す内容を確認しましょう。正答率は93%でした。

問13【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は17）

正答は④です。傍線部F直前「これ」が指す内容を確認しましょう。正答率は75%でした。

問14【内容合致問題】（解答番号は18）

正答は③です。第5～7段落から正答が導けます。⑦については「足りない」と指摘しているのはマーク・ワイザーではなく、筆者であるため不正解です。正答率は54%でした。

問15【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は19）

正答は④です。本文では〈非メディアコンシャスの世界〉への進化について述べられています。正答率は72%でした。

II

出典 『哲学のヒント』（藤田正勝）岩波書店2013年

「生」「私」「死」「実在」「経験」などをテーマに古今東西の哲学者の言葉をたどる哲学の入門書です。敬体でわかりやすく書かれているので、文意を掴むのは容易でしょう。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は20～24）

a 審判 b 象徴 c 築 d 必須 e 脚色 がそれぞれ正答です。完全正答率は17%でした。簡単な漢字ばかりですが、読みやすい字で書くという指示を守っていない答案が散見されました。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は25～27）

空欄Ⅰは3行前の「人間関係」が、空欄Ⅱは3行前の「つつしみ」がヒントになります。空欄Ⅲは前後の内容から考えれば正答がすぐ導けるでしょう。正答はⅠが⑧、Ⅱが③、Ⅲが⑤であり、正答率はそれぞれ86、58、92%でした。

問3【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は28）

傍線部Aの前の段落をよく読めば正答は④だとすぐわかるはずですが。正答率は83%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は29）

傍線部Bの段落とその前の段落を熟読すれば正答は⑤と導けます。正答率は56%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は30）

傍線部Cの直前にある3つの文から正答が②だと容易に導けます。正答率は80%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は31）

傍線部Dの段落をじっくり読めば正答は⑥であることがわかります。正答率は66%でした。

問7【文脈から言葉の意味を考える問題】（解答番号は 32）

この「おいて」は「さしおいて」という意味であり、正答は③です。正答率は28%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 33）

傍線部Fの直前の段落に正答の②を導くヒントが書かれています。正答率は38%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 34・35）

正答は①と⑥であり、正答率は51%でした。傍線部Gに続く2つの段落をよく読めば正答できます。

問10【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は 36）

正答率は56%でした。この節で著者は終始一貫して、和辻が人間というものをどのように捉えていたかについて説明しているので、正答の⑦を選ぶのは容易でしょう。

問11【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は 37）

正答率は34%でした。著者は和辻による「人間」の概念規定を語っており、それは傍線部Fがある和辻の著書からの引用文に集約されますので、④が正答です。①を選ぶ誤答が散見されましたが、著者は「人間」という語そのものよりも和辻の「人間」理解に重点を置いています。

問12【内容合致問題】（解答番号は 38）

正答は⑦と⑧で、正答率は3%でした。①、②、⑤を選ぶ誤答が多かったです。①は「まったくうまくいかず」が誤り（本文には「いったんは…うまくいった」と書かれている）、②は「恥ずべき行為であるため」が誤り（本文にそのような言及はなされていない）、⑤は「述べている」が誤り（白川静が述べているわけではない）です。